



アトリエでの桜井祐一

米沢市出身の彫刻家 桜井祐一（1914～1981/大正3～昭和56）は、17歳から彫刻をはじめ、20歳で日本美術院展覧会（院展）に初入選して頭角を現し、5年後には院友に推挙されます。戦後は、具象彫刻の中心的作家のひとりとして「ネグリジェの女」「あるポーズ」のシリーズで確固たる地位を築き、戦後日本彫刻史の主要な作家となりました。

初期の日常感覚にあふれた木彫、戦後取り組んだ女性の身体を造形的にとらえたシリーズ、一時期試みた具象を突き詰めたデフォルメなど、豊かな作品遍歴には、長年病と闘いながら制作を続けた桜井の苦悩と、生きることへの希求が強く反映されています。晩年、「レダ」で中原悌二郎賞を受賞し、抑制されたポーズの官能性豊かな女性像に「内的生命の表出」を託しながら病をおして制作を続けました。

戦時中は米沢に疎開し、制作活動を続けましたが、その間、日本画の遠藤桑珠や福王寺法林らと米沢美術連盟を組織して文化活動を行い、鈴木実や阿部誠ら山形県出身の後進の指導にも励み、米沢の文化芸術に重要な役割を果たしています。

本展では桜井祐一の生誕100年を記念し、その主要な作品（木彫、ブロンズを中心に）とともに制作活動の全貌を振り返り、桜井の目指した『生命の造形』を紹介し、また、新発見の最初期の木彫も初公開します。



「藝ふ人」(1934)木彫



「特務兵」(1939)木彫



「少年」(1947)木彫



「浜の女」(1943)木彫



「沈む地球」(1955)ブロンズ



「あるポーズ」(1965)ブロンズ



「寒山拾得」(制作年未詳)木彫



「レダ」(1976)ブロンズ

展示構成

- I 彫刻家への道 — 木彫からのはじまり
- II 戦後彫刻界の中で — 写真と具象
- III 造形としての裸婦 — 「あるポーズ」
- IV コミッションワーク
- V 内なる生命の表出 — いのちをたくして

ギャラリートーク

「桜井祐一のしごと」

12月6日(土) 14:00～ 当館学芸員
ゲスト：桜井直樹氏（桜井祐一 次男）
*要企画展示室入館料

募集制ワークショップ

君も彫刻家！ねんどで人形をつくってみよう！

日時：12月21日(日) 13:30～16:00
対象：小中学生 20名
参加費：500円
受付：11月19日(水)～

ナイトツアー ようこそ夜の博物館へ

桜井祐一 彫刻～生命の軌跡～

日時：2015年1月16日(金) 19:00～20:30
対象：どなたでも（中学生以下は保護者同伴）20名
参加費：500円
受付：12月10日(水)～

FANCLUB&SUPPORTER
メンバー募集中！

伝国の杜ファンクラブ
特典いろいろ。
現在会費半額です！
伝国の杜サポーター
人とつながる自分を生かせる
ボランティア

- JR米沢駅から2km、上杉神社隣接
- 市内循環バス「上杉神社前」下車
- 市内循環バス南回り路線「九里学園前」下車
- 山形蔵王IC・福島飯坂ICよりR13で約50分

〒992-0052 山形県米沢市丸の内1-2-1
TEL 0238-26-8001 FAX 0238-26-2660
http://www.denkoku-no-mori.yonezawa.yamagata.jp

次回企画展

上杉博物館アートコレクション
「植物学者 清水大典 冬虫夏草図の世界」
2015. 2/14(土)～3/22(日) 休館日：毎週月曜日

常設展示室から

上杉文華館 * 通年テーマ展示
「上杉鷹山をめぐる人々」
11/27-12/21 藩校・興譲館の俊英
12/23- 1/25 庶民と触れ合う
1/27- 2/22 商人の力を借りて
(休館日/12/26-31, 毎週月曜日, 月曜日が祝日の場合はその翌日)

置賜文化ホールから

12/8(月) 18:00開場 18:30開演
平成26年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ
「金剛能米沢公演」 出演：金剛龍護・野村萬奇 他
指定席4,000円 自由席3,500円 学生券2,000円(当日各500円増)

発売中

